

# 北九州事業地域における掘り起こし調査の先行事例

平成30年10月  
環境省廃棄物規制課

## 北九州事業地域における掘り起こし調査の先行事例

- 北九州事業地域の自治体による自家用電気工作物設置者を対象とした変圧器、コンデンサー等の掘り起こし調査について、自治体へのアンケート調査結果や、関係機関(地方環境事務所、産業保安監督部、電気保安協会、電気管理技術者協会、JESCO)への聞き取り結果等をもとに、現在、掘り起こし調査を実施中の他の地域の自治体の参考となり得る情報を、先行事例として取りまとめた。

### 北九州事業地域における変圧器、コンデンサー等の掘り起こし調査の結果

北九州事業地域の37区市により、約20万件の事業者を対象に掘り起こし調査を実施。平成30年1月完了。

新規に掘り起こされた事業者数は約1,200件(調査対象事業者の0.6%)。北九州事業地域のPCB使用変圧器、コンデンサー等の保管事業者全体(JESCO登録事業者約12,000件)の約10%に相当。

新規に掘り起こされた機器は、変圧器約250台、コンデンサー約1,400台。北九州事業地域のJESCO登録機器全体(変圧器約2,700台、コンデンサー約51,000台)のそれぞれ約9%、約3%に相当。

# 北九州事業地域における掘り起こし調査の先行事例

## 掘り起こし調査のポイント

アンケート調査結果等を活用した電話確認、現地調査及び立入検査の実施等に加えて、以下のような点が重要。

電気主任技術者との連携

人が普段立ち入らない場所の重点的な調査の実施

事業者及び関係者に対する期限内処理の周知の徹底 等

## 発見された場所

電気室、キュービクル、倉庫での発見が多いが、その他の場所での発見事例もあった。

- ◆ 使用しなくなったボイラー室、使用されていない工場、管理されていない空きスペース
- ◆ 廃工場、廃墟ビル、廃業した旅館/ホテル、廃業した会社の倉庫  
(先代で廃業したり、売却等されており、現在の所有者が把握していない場合 等) 等

## 発見された状況

以下のような状況で発見された事例もあり、漏れが無いよう現場を再確認することが重要。

- ◆ 倉庫等の片づけ(大掃除等)の際に発見
- ◆ 建物の解体や電気設備の更新等の工事の際に発見
- ◆ 電気主任技術者の交代等に伴い発見
- ◆ 書類や図面から漏れていたが、現場を確認したところ発見 等

## 北九州事業地域における掘り起こし調査の先行事例

### 優良事例、独自の工夫等

調査項目を必要最小限とし、容易に回答できるものとした。  
調査用封筒に「重要なお知らせ」と「未回答の場合、再調査の予定がある旨」を明記して発送した。

フォローアップの督促の電話の際に回答を聞き取ることで、回答率の向上を図った。  
最終通知をカラー封筒に赤字で「重要なお知らせです 必ず開封して中をご覧ください」と表示して発送したところ、多くの反応があった。

調査票の記入要領に、不明な点は電気主任技術者に相談するよう明記した。  
事前に電気保安法人へ協力を依頼してパイプラインを構築し、特に未回答事業者には電気主任技術者の連絡先を聞き出すことなどで、調査を円滑に行うことができた。  
月次、年次点検での確認を徹底し、設備台帳が整備されていない場合は早急に停電点検を行い確認、集中的に取り組むことにより効果を上げた。

電気絶縁物処理協会の台帳の活用により新たに掘り起こされた事例があった。  
地方紙に記事が掲載されたことで周知、広報の効果があった。  
テレビCMにより問合せが増え、周知、広報の効果があった。

### 今後への教訓、課題

電気関係設備以外の場所での保管の可能性にも十分留意するよう説明が必要。  
「未達」の事業者には、当該住所に機器が存在しないこと、当該事業者が、別の場所に機器を保有していないこと、の2点を確認することが重要。

「未回答」の事業者が多く、最終通知の送付件数が多かった自治体は、本年度の新規発見が多い傾向にあるため、「未回答」の事業者は可能な限り回答を得ることが重要。  
テレビCMを利用した周知、広報は、より早い時期に、長い期間行う方が有効。